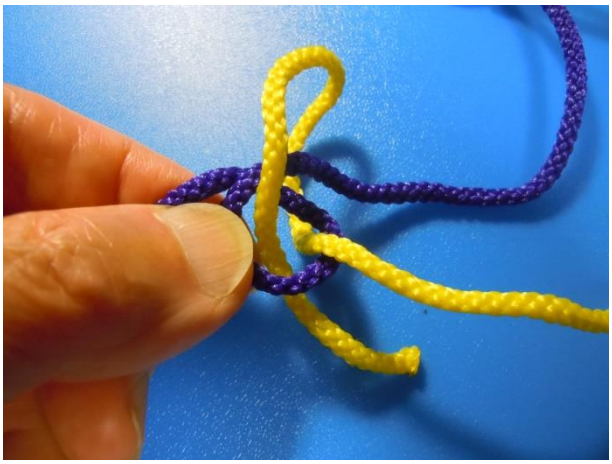
スネークノット（snake knot）を連ねる

　パラコードを編んでランヤード(lanyard)を作るとき、スネークノットを連ねる方法がある。スネークノットは日本では男結びと呼ばれるもので、造園などでよく使われる結びである。
　この結びは本結びや縦結びとよく似ているが、微妙に異なり、それぞれ特徴がある。ここでは結び目を作ることで、ランヤードを編み込んでいる。

結び目を作る

片方のライン（紫）に左の写真のように輪を作る。その輪の中に他方の端（黄）を上から入れ、クロスした（紫）を超えて手前に引き出す。



引き出した端（黄）をもう一度輪の中（紫）を通す。

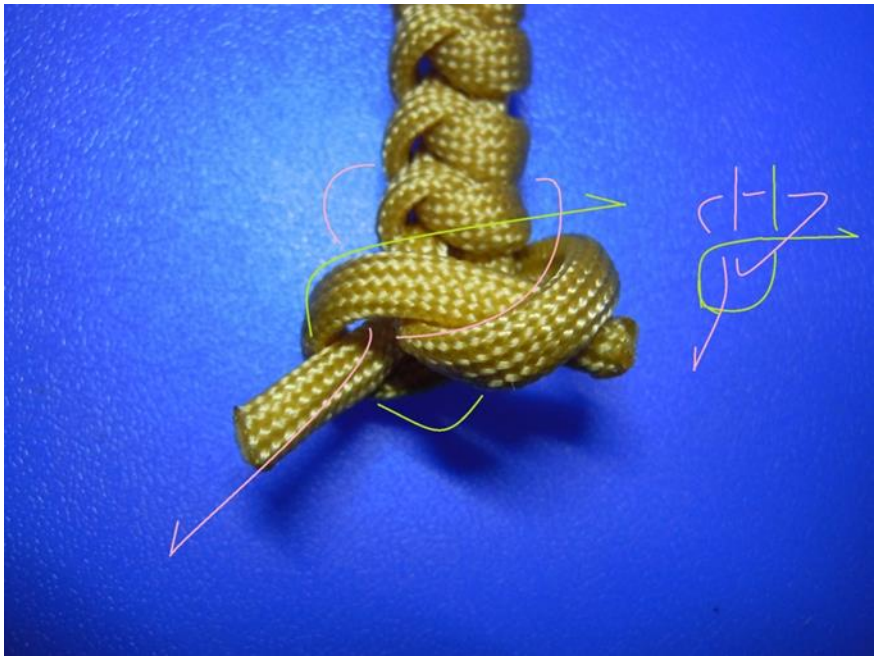
ライン（紫・黄）を相互に引き締めて結び目を作る。
これを繰り返し、形を調えながら結び目を連ねていく。

20210915　XRQTechLab

Snake Knot

繰り返すとヘビの鱗のようなきれいな編み目になる結び方です。平結びを表側と裏側に同時に入れています。つまりコードが一回りする中で２つの交差部分を持つ構造です。

結び方は右側のコードを時計回りに輪を作り交差部分を指で押さえます。左側のコードを交差部分の上に被せ、元のコードを回り込んで輪の中を引き出します。輪を作っていたコードの端を引き締めると結びができあがります。



まず、黄緑の線のように輪を作り、
次に、ピンクの線のように元のコードを巻くようにしてから輪の中から引き出します。

芯を包るむようにこの結びをすることもできます。この結びを繰り返すことでコードの先にリングなどを留める編み方になります。

別の角度から見ると、

黄緑の線のように輪で全体を包み、それを追いかけるようにして輪を通します。、（ピンクの線）

XRQTechLab2025.07